



※写真はイメージです

Q 現況をどう捉えているか。
A 若年層の投票率が低いことは重要な課題。高齢者に対する取り組みはもちろん若年層に向けた対策が必要。

投票率向上の取り組みについて

Q 三条市総合計画について
A 11月末に国勢調査の結果が示されたが分析は行ったか。
A 分析をした。人口動態を比較するとほぼ全ての世代で悪化している。

三条市総合計画について

豆ちしき まちやまとは、新しくオープン予定の図書館等複合施設の愛称。一般公募により決定しました。



※写真はイメージです

Q 交通インフラの維持を最優先した除雪体制について
A 昨年の除雪実態の総括について反省点・改善点を問う。
A 除雪事業者を74社に増やした他、受け持ち路線の見直しを行い、除雪サイクルの改善を図る。また除雪機械の貸与を行い担い手の確保を図る。さらに広報にも力を入れ、市民からも円滑な除雪作業に協力いただけるようにする。

交通インフラの維持を最優先した除雪体制について

三条市におけるデジタル社会の早期実現について

Q インフラ維持コストに対し、デジタル社会早期実現の必要性について所見を問う。
A 政府からは、自治体がデジタル技術やデータを活用し、住民の利便性の向上と業務効率化を図ることが求められている。4月から電子契約、請求行為の電子化、職員採用試験のオンライン化、職員間チャットツールの導入に取り組んだ。チャットツール導入は、ワクチン接種の際の医療機関との連絡にも活用でき、効率化が図られた。今後も新たなサービス、ツールの情報収集に努め、逐次導入し業務改善に取り組み。



5Gによるデジタル社会の実現

三条市におけるデジタル社会の早期実現について



建設中の図書館等複合施設「まちやま」

Q 図書館等複合施設について
A 鍛冶ミュージアムを含む「まちやま」がオープンすることを契機に「ものづくりのまち三条」を発信すべく敷地内に地場産品等の販売場所を設置してはどうか。
A 鍛冶道場で販売しているから新たに設ける予定はない。

図書館等複合施設について

農家支援

Q 米価下落により減収となった農家への支援について伺う。
A 基本的には国が考えるべき。市では考えていない。

次期総合計画立案に関する考え方について

Q 市民主体で取り組む次期総合計画立案手法について問う。
A 職員の一人一人が日常から市民の声の把握に努めている。今まで通りの基本スケジュールに沿った計画立案プロセスを予定している。

電子図書館について

Q 電子図書館を導入すべきではないか。
A 高齢者や障がいのある方も閲覧しやすく利用者全体の利便性を大きく向上させることから「まちやま」の供用開始に合わせて導入に向け検討を進める。



Q 電子図書館導入時、条例整備等必要なことや障壁はあるか。
A 条例等の整備は不要。導入に際しての障壁は、電子図書購入費用やクラウド使用料等のコスト面。

新型コロナウイルスのワクチン接種

Q これから1、2回目の接種を希望する市民への対応を伺う。
A コールセンターに相談、応急診療所で実施している。

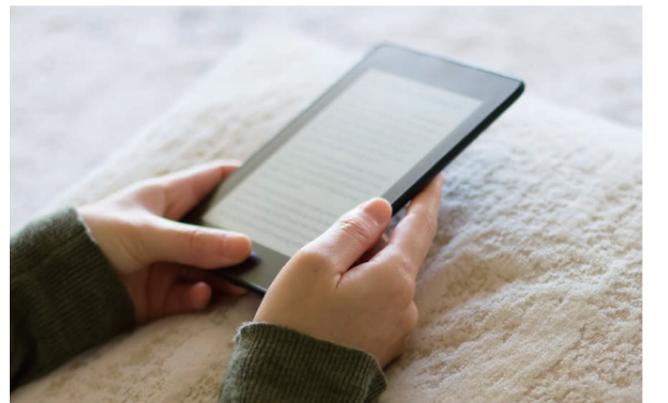


新総合計画

Q 目指すべき将来都市像について伺う。
A それぞれの地域の特性を生かしながら、多極分散型のまちづくりを進める。

八十里越開通に向けて

Q 流入交通による渋滞対策を伺う。
A 県が第二産業道路渋滞対策を進めており、関係機関との協議も行われる予定。



※写真はイメージです

発達障がいについて

Q 市は発達障がいをお持ちの子や保護者に、受験時に受けられる合理的配慮について、学校から説明や必要な啓発はされたのか。
A 本人や保護者が困難さを感じた場合や学校教職員が困難さを有している」と推察した場合、相談の上「特別な配慮を必要とする者の受験上の措置申請」を学校長が行い出願先の高校等に必要な配慮を求めるとなっている。市では上記の申請を行い、ルビ振り措置を受けた例がある。

高齢者の運転免許返納

Q 高齢者の交通事故の傾向とデマンド交通の充実について伺う。
A 高齢者が加害者となる事故は増加傾向。公共交通の行政と利用者の負担について検討を進める。

職員の定年延長

Q 再任用制度見直しと定年延長について伺う。
A 県内の動向を踏まえ検討、県の条例改正の時期を踏まえ導入する。

公立保育所について

Q 今年度の待機児童の状況と解消に向けた取り組みを伺う。
A 今年度は一人発生。保育士の会計年度任用職員に経験者枠の設定を行う。

